

外国人材
就労意識調査

報告書
(概要版)

令和2年3月
広島県

第一章 調査概要

(1) 調査目的

広島県内企業で就労する技能実習生や、広島県内教育機関に通う留学生等の今後の就労意向や就労する場合の条件、課題、現在の生活実態等を調査し、今後の取り組みにおける検討の基礎資料を作成することを目的とする。

(2) 調査対象

【郵送調査】

- ①広島県内の企業で就労する技能実習生 2,402 人
- ②広島県内の日本語教育機関等及び大学等に在籍する留学生 2,064 人
(日本語教育機関等：979 人 大学等：1,085 人)
- ③公益財団法人ひろしま国際センターへの来所者（相談窓口及びその他一般外国人） 86 人

(3) 調査方法

- ・郵送によるアンケート調査
- ・グループインタビュー調査

(4) 回収状況等

【郵送アンケート調査】

		対象者数（人）	回収数（人）	回収率（％）
①技能実習生		2,402	1,311	54.6%
②留学生	日本語教育機関等	979	610	62.3%
	大学生等	1,085	261	24.1%
③一般外国人		86	50	58.1%

※集計対象者の定義については、「(8) 備考」に記載

【グループインタビュー調査】

- ①広島県内の企業で就労する技能実習生 9 名
- ②広島県内の日本語教育機関及び大学に在籍する留学生 21 名
(日本語教育機関 15 名 大学：6 名)

(5) 調査期間

【郵送調査】

令和元年 9 月 4 日～令和元年 10 月 24 日

【グループインタビュー調査】

令和元年 12 月 3 日～令和元年 12 月 13 日

(6) 実施機関

株式会社日本統計センター

(7) 調査結果の見方

調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はNで示している（各質問における無回答者を除外した回答者の総数を示している）。

回答率(%)については、小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。

出身国、在留期間、日本語習熟度などの内訳を表示している場合、属性について未回答である者が存在するため、内訳の合計は全体の合計と必ずしも一致しないことがある。

(8) 備考

■技能実習生の定義

在留資格が「技能実習」であり、居住地域及び就業地域を広島県内としている1,311人を「技能実習生」として集計対象とした。

出身国	ベトナム	中国	フィリピン	インドネシア	その他	不明	合計
集計対象	498人	498人	150人	101人	55人	9人	1,311人

■日本語学校生等の定義

在留資格が「留学」かつ現在の留学先が県内の「専修学校専門課程（専門学校）」及び「日本語教育機関（日本語学校）」と回答した610人を「日本語学校生等」として集計対象とした。

国籍	ベトナム	中国	ネパール	その他	不明	合計
集計対象	425人	83人	50人	50人	2人	610人

■大学生等の定義

在留資格が「留学」かつ現在の留学先が県内の「大学院（博士コース、修士コース）」、「専門職大学院課程」、「大学の学部正規課程」、「短期大学」、「準備教育課程」、「その他（研究生等）」と回答した261人を「大学生等」として集計対象とした。

国籍	ベトナム	中国	その他	不明	合計
集計対象	58人	151人	52人	0人	261人

■一般外国人の定義

在留資格が「留学」以外と回答した対象者50名を「一般外国人」として集計対象とした。

国籍	ベトナム	中国	その他	不明	合計
集計対象	13人	16人	19人	2人	50人

■就業地域及び居住地域の集約について

就業地域及び居住地域を以下の4地域に集約し、集計を行った。

北部地域：三次市、庄原市、安芸高田市、安芸太田町、北広島町
東部地域：三原市、尾道市、福山市、府中市、世羅町、神石高原町
中部地域：呉市、竹原市、東広島市、江田島市、大崎上島町
西部地域：広島市、大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町

■日本語の習熟度による集計について

本調査では、外国人が自覚している日本語習熟度による就労・生活環境の課題などの傾向をみるため、日本語能力に関する設問の回答結果をもとに、日本語の習熟度を「習熟度【高】」、「習熟度【中】」、「習熟度【低】」の3段階に分類し、集計を行った。よって、本調査の習熟度の分類は、試験等の結果に基づく客観的な指標ではない。

なお、日本語の習熟度分類における定義は、以下のとおりである。

手順①：日本語能力に関する設問の結果を集約

技能実習生における調査票のQ19、留学生・一般外国人における調査票のQ22の各設問において、「会話」、「読み」、「書き」の回答結果を下表の区分により「できる」、「できない」に類別した。

	「できる」	「できない」
①日本語で会話する	「3.できる」と回答	「1.ほとんどできない」、「2.少しできる」と回答
②ひらがな・カタカナを読む	「3.できる」と回答	「1.ほとんどできない」、「2.少しできる」と回答
③漢字を読む	「3.できる」と回答	「1.ほとんどできない」、「2.少しできる」と回答
④ひらがな・カタカナで書く	「3.できる」と回答	「1.ほとんどできない」、「2.少しできる」と回答
⑤漢字を使って日本語を書く	「3.できる」と回答	「1.ほとんどできない」、「2.少しできる」と回答

手順②：類別した区分「できる」、「できない」に該当する回答の個数に応じて、日本語の習熟度に分類
 手順①で集約したカテゴリの個数に応じて、以下のように日本語の習熟度を分類した。

日本語の習熟度	類別した区分に該当する回答の個数
①習熟度【高】	「できる」が4個以上
②習熟度【中】	「できる」が2個または3個
③習熟度【低】	「できる」が1個以下



◆対象者別日本語習熟度の分類結果

	①習熟度【高】	②習熟度【中】	③習熟度【低】
技能実習生	8.8% (98人/1,120人)	59.1% (662人/1,120人)	32.1% (360人/1,120人)
日本語学校生等	28.5% (153人/537人)	58.8% (316人/537人)	12.7% (68人/537人)
大学生等	70.6% (175人/248人)	20.2% (50人/248人)	9.3% (23人/248人)

※ () 内は、それぞれの実数値

第二章 調査結果の概要と分析

1. 就労環境・就労に対する意識

(1) 職場での課題について

- 技能実習生、日本語学校生等、大学生等の6～7割が職場^{※1}において何らかの課題を抱えている。
- 主な課題は、「方言がわからない」（各25%前後）をはじめ、職場でのコミュニケーションに関する課題が多い。
- 在留期間が短く、日本語の習熟度^{※2}が低いほど、職場の困りごとが多い傾向がある。ヒアリング調査においても、来日当初は「専門用語がわからない」、「指示が聞き取れない」など困ることがあり、同僚等のサポートにより解決したという声が聞かれた。

【職場で困っていること（在留期間別、複数回答）】

(上段:実数、下段:%)

	回答者数	仕事が難しい	仕事が多い	仕事で必要な日本語が聞き取れない	仕事で必要な日本語が話せない	仕事で必要な日本語が読めない	仕事で必要な日本語が書けない	仕事で必要な専門的な言葉がわからない	方言（広島独特のことば）がわからない	会社の人と日本語でコミュニケーションが取れない	会社のルールが理解できない	日本の雇用ルール（法律など）を知らない	困っていることはない	その他
技能実習生	1,271	45	52	165	130	95	54	94	315	220	25	78	472	64
	100.0	3.5	4.1	13.0	10.2	7.5	4.2	7.4	24.8	17.3	2.0	6.1	37.1	5.0
1年未満	315	19	8	92	46	41	14	40	103	66	3	8	78	10
	100.0	6.0	2.5	29.2	14.6	13.0	4.4	12.7	32.7	21.0	1.0	2.5	24.8	3.2
1年	282	6	11	33	32	28	17	24	63	46	0	17	109	19
	100.0	2.1	3.9	11.7	11.3	9.9	6.0	8.5	22.3	16.3	0.0	6.0	38.7	6.7
2年	436	14	19	28	33	17	12	15	100	84	15	32	169	24
	100.0	3.2	4.4	6.4	7.6	3.9	2.8	3.4	22.9	19.3	3.4	7.3	38.8	5.5
3年	178	3	12	9	16	6	8	12	39	20	6	15	85	7
	100.0	1.7	6.7	5.1	9.0	3.4	4.5	6.7	21.9	11.2	3.4	8.4	47.8	3.9
4年以上	40	2	2	0	1	2	2	1	5	3	1	4	23	3
	100.0	5.0	5.0	0.0	2.5	5.0	5.0	2.5	12.5	7.5	2.5	10.0	57.5	7.5
日本語学校生等	546	24	42	84	93	52	41	114	129	58	12	39	147	23
	100.0	4.4	7.7	15.4	17.0	9.5	7.5	20.9	23.6	10.6	2.2	7.1	26.9	4.2
1年未満	207	8	18	43	53	27	15	55	51	34	3	13	43	5
	100.0	3.9	8.7	20.8	25.6	13.0	7.2	26.6	24.6	16.4	1.4	6.3	20.8	2.4
1年	177	6	16	29	25	15	17	36	38	16	5	13	50	5
	100.0	3.4	9.0	16.4	14.1	8.5	9.6	20.3	21.5	9.0	2.8	7.3	28.2	2.8
2年	96	5	6	9	8	7	5	17	29	4	2	9	31	8
	100.0	5.2	6.3	9.4	8.3	7.3	5.2	17.7	30.2	4.2	2.1	9.4	32.3	8.3
3年	32	0	2	2	1	1	2	4	9	1	1	3	9	4
	100.0	0.0	6.3	6.3	3.1	3.1	6.3	12.5	28.1	3.1	3.1	9.4	28.1	12.5
4年以上	31	5	0	0	5	1	1	2	1	3	1	1	13	1
	100.0	16.1	0.0	0.0	16.1	3.2	3.2	6.5	3.2	9.7	3.2	3.2	41.9	3.2
大学生等	179	3	15	9	14	6	2	36	45	9	5	14	73	8
	100.0	1.7	8.4	5.0	7.8	3.4	1.1	20.1	25.1	5.0	2.8	7.8	40.8	4.5
1年未満	17	0	3	4	6	2	1	6	6	1	0	3	3	0
	100.0	0.0	17.6	23.5	35.3	11.8	5.9	35.3	35.3	5.9	0.0	17.6	17.6	0.0
1年	13	1	0	3	2	2	0	5	5	2	1	0	3	0
	100.0	7.7	0.0	23.1	15.4	15.4	0.0	38.5	38.5	15.4	7.7	0.0	23.1	0.0
2年	39	0	2	0	2	0	1	7	14	1	3	1	16	3
	100.0	0.0	5.1	0.0	5.1	0.0	2.6	17.9	35.9	2.6	7.7	2.6	41.0	7.7
3年	61	2	6	2	4	1	0	11	14	5	1	7	23	3
	100.0	3.3	9.8	3.3	6.6	1.6	0.0	18.0	23.0	8.2	1.6	11.5	37.7	4.9
4年以上	49	0	4	0	0	1	0	7	6	0	0	3	28	2
	100.0	0.0	8.2	0.0	0.0	2.0	0.0	14.3	12.2	0.0	0.0	6.1	57.1	4.1

※在留期間の不明となっている回答者がいるため、属性ごとの小計と内訳は一致しない。

※1 技能実習生については実習先、日本語学校生等及び大学生等についてはアルバイト先。

※2 調査対象者の主観に基づく回答を整理・類別した区分。現実の日本語能力と必ずしも一致していない。

【職場で困っていること（日本語習熟度別、複数回答）】

(上段:実数、下段:%)

	回答者数	仕事が難しい	仕事が多い	仕事で必要な日本語が聞き取れない	仕事で必要な日本語が話せない	仕事で必要な日本語が読めない	仕事で必要な日本語が書けない	仕事で必要な専門的な言葉がわからない	方言（広島特有のことば）がわからない	会社の人と日本語でコミュニケーションが取れない	会社のルールが理解できない	日本の雇用ルール（法律など）を知らない	困っていることはない	その他
技能実習生	1,271	45	52	165	130	95	54	94	315	220	25	78	472	64
	100.0	3.5	4.1	13.0	10.2	7.5	4.2	7.4	24.8	17.3	2.0	6.1	37.1	5.0
日本語習熟度【低】	349	18	17	46	42	23	18	32	92	87	10	26	106	15
	100.0	5.2	4.9	13.2	12.0	6.6	5.2	9.2	26.4	24.9	2.9	7.4	30.4	4.3
日本語習熟度【中】	646	20	24	78	58	53	29	46	162	96	12	30	252	40
	100.0	3.1	3.7	12.1	9.0	8.2	4.5	7.1	25.1	14.9	1.9	4.6	39.0	6.2
日本語習熟度【高】	95	2	2	7	5	4	0	3	22	8	1	7	52	3
	100.0	2.1	2.1	7.4	5.3	4.2	0.0	3.2	23.2	8.4	1.1	7.4	54.7	3.2
日本語学校生等	546	24	42	84	93	52	41	114	129	58	12	39	147	23
	100.0	4.4	7.7	15.4	17.0	9.5	7.5	20.9	23.6	10.6	2.2	7.1	26.9	4.2
日本語習熟度【低】	53	4	3	12	21	6	5	7	8	5	0	2	12	3
	100.0	7.5	5.7	22.6	39.6	11.3	9.4	13.2	15.1	9.4	0.0	3.8	22.6	5.7
日本語習熟度【中】	305	13	23	44	49	35	29	63	79	37	4	19	78	13
	100.0	4.3	7.5	14.4	16.1	11.5	9.5	20.7	25.9	12.1	1.3	6.2	25.6	4.3
日本語習熟度【高】	129	1	11	18	16	3	4	35	33	10	5	14	43	5
	100.0	0.8	8.5	14.0	12.4	2.3	3.1	27.1	25.6	7.8	3.9	10.9	33.3	3.9
大学生等	179	3	15	9	14	6	2	36	45	9	5	14	73	8
	100.0	1.7	8.4	5.0	7.8	3.4	1.1	20.1	25.1	5.0	2.8	7.8	40.8	4.5
日本語習熟度【低】	7	0	1	0	0	1	0	1	3	0	0	0	2	0
	100.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
日本語習熟度【中】	29	0	2	2	7	4	1	6	9	3	0	1	7	2
	100.0	0.0	6.9	6.9	24.1	13.8	3.4	20.7	31.0	10.3	0.0	3.4	24.1	6.9
日本語習熟度【高】	132	2	11	6	4	0	0	27	32	5	4	11	61	6
	100.0	1.5	8.3	4.5	3.0	0.0	0.0	20.5	24.2	3.8	3.0	8.3	46.2	4.5

※調査対象者の主観に基づく回答を整理・類別した区分

○ 職場の困りごとの相談相手は、

- 技能実習生 会社の日本人 46.2% (598人/1,295人)、同じ国出身の同僚 45.1% (584人/1,295人)
- 日本語学校生等 学校等の友人 51.9% (286人/551人)、会社の日本人 50.5% (278人/551人)
- 大学生等 学校等の友人 59.4% (107人/180人)、会社の日本人 47.8% (86人/180人)

○ 同じ国出身の同僚や頼りになる日本人従業員の存在が就労環境に大きく影響すると考えられる。

【活用したい在留資格】

(上段:実数、下段:%)

(2) 今後の日本における就労意向について

① 就労意向の有無

- ほとんどの外国人材が引き続き日本に滞在して就労を希望している。

《就労希望「あり」の回答の割合》

- 技能実習生 81.4% (1,040人/1,277人)
- 日本語学校生等 95.6% (562人/588人)
- 大学生等 82.4% (202人/245人)

② 活用したい在留資格

- 技能実習生は、半数以上が特定技能を視野に入れている。

- 日本語学校生等、大学生等は、7～8割程度が専門的・技術的分野の在留資格（技術・人文知識・国際業務）での就労を希望している。

	回答者数	専門的・技術的分野（人文・知識・国際業務）	特定技能	その他の在留資格	在留資格についてわからない
技能実習生	1,214	291	677	107	271
	100.0	24.0	55.8	8.8	22.3
ベトナム	456	104	262	50	89
	100.0	22.8	57.5	11.0	19.5
中国	458	156	189	29	149
	100.0	34.1	41.3	6.3	32.5
フィリピン	144	16	119	8	7
	100.0	11.1	82.6	5.6	4.9
インドネシア	98	2	78	19	8
	100.0	2.0	79.6	19.4	8.2
その他	50	12	25	0	14
	100.0	24.0	50.0	0.0	28.0
日本語学校生等	541	394	154	39	25
	100.0	72.8	28.5	7.2	4.6
ベトナム	394	305	105	20	10
	100.0	77.4	26.6	5.1	2.5
中国	66	48	15	10	7
	100.0	72.7	22.7	15.2	10.6
ネパール	40	18	19	5	5
	100.0	45.0	47.5	12.5	12.5
その他	39	21	15	4	3
	100.0	53.8	38.5	10.3	7.7
大学生等	179	150	28	11	10
	100.0	83.8	15.6	6.1	5.6
ベトナム	49	44	7	0	0
	100.0	89.8	14.3	0.0	0.0
中国	102	91	15	9	3
	100.0	89.2	14.7	8.8	2.9
その他	28	15	6	2	7
	100.0	53.6	21.4	7.1	25.0

③ 日本で就労する場合の業種や企業等の選択基準

a. 業種の希望について

- 技能実習生は「製造業」を中心に希望が多く、日本語学校生等は「外食業」や「製造業」が多い。一方、大学生等では「その他サービス業」や「その他」が多く、自由記述欄の記載を見ると、通訳・翻訳、教育、IT関係などのサービス業の希望が多い。活用したい在留資格と同様に、来日目的やキャリアに対する意識等の違いがみられる結果となっている。
- 選択理由は、いずれも「自分の技術や経験が使えるから」が半数以上で最多である。
- 技能実習生は、全体では約7割が現在の実習先と同じ分野を選択している。

【外国人材が就労を希望する業種（3つまで複数回答）】

(上段：実数、下段：%)

	回答者数	農業	漁業 (かき養殖など)	建設業 (土木・建築など)	製造業 (繊維・衣服)	製造業 (食品)	製造業 (機械・金属)	製造業 (電気・電子関連)	製造業 (造船)	製造業 (自動車関係)	製造業 (その他)	小売	宿泊業	外食業	介護	ビルクリーニング	その他のサービス業	その他
技能実習生	1,276	91	25	74	263	346	220	208	222	313	70	104	39	215	81	13	48	60
	100.0	7.1	2.0	5.8	20.6	27.1	17.2	16.3	17.4	24.5	5.5	8.2	3.1	16.8	6.3	1.0	3.8	4.7
日本語学校生等	557	17	2	25	28	131	35	123	6	139	25	48	49	169	76	7	78	68
	100.0	3.1	0.4	4.5	5.0	23.5	6.3	22.1	1.1	25.0	4.5	8.6	8.8	30.3	13.6	1.3	14.0	12.2
大学生等	199	6	1	6	5	23	16	26	3	28	7	30	16	34	9	1	53	55
	100.0	3.0	0.5	3.0	2.5	11.6	8.0	13.1	1.5	14.1	3.5	15.1	8.0	17.1	4.5	0.5	26.6	27.6

【業種を選択理由（3つまで複数回答）】

(上段：実数、下段：%)

	回答者数	自分の技術や経験が使える	帰国後に仕事に関与	いきなり条件が	給料の支払いが	仕事の継続が	みたくて経験を積む	その他の理由
技能実習生	1,259	692	566	421	454		61	
	100.0	55.0	45.0	33.4	36.1		4.8	
日本語学校生等	551	327	323	165		181	18	
	100.0	59.3	58.6	29.9		32.8	3.3	
大学生等	196	104	72	54		90	9	
	100.0	53.1	36.7	27.6		45.9	4.6	

【外国人材が就労を希望する業種（技能実習生、3つまで複数回答）】

今後就労する場合の希望業種

	サンプル数	農業	漁業	建設業	製造業 (繊維・衣服)	製造業 (食品)	製造業 (機械・金属)	製造業 (電気・電子関連)	製造業 (造船)	製造業 (自動車関係)	製造業 (その他)	小売業	宿泊業	外食業	介護	ビルクリーニング	その他のサービス業	その他	現在と同業種への就労志望者比率	
全体	1,276	91	25	74	263	346	220	208	222	313	70	104	39	215	81	13	48	60	89.8	
	100.0	7.1	2.0	5.8	20.6	27.1	17.2	16.3	17.4	24.5	5.5	8.2	3.1	16.8	6.3	1.0	3.8	4.7	70.4	
実習先の業種	農業	45	33	0	1	3	12	2	5	0	2	4	2	10	3	2	0	4	33	
		100.0	73.3	0.0	2.2	6.7	26.7	4.4	11.1	0.0	11.1	4.4	8.9	4.4	22.2	6.7	4.4	0.0	8.9	73.3
	漁業	14	2	4	0	7	1	1	2	1	0	1	0	1	0	2	1	0	4	4
		100.0	14.3	28.6	0.0	50.0	7.1	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	14.3	7.1	0.0	28.6
	建設業	87	8	2	52	2	20	11	31	3	23	6	3	6	1	0	3	1	52	52
		100.0	9.2	2.3	59.8	2.3	23.0	12.6	35.6	3.4	26.4	6.9	3.4	3.4	6.9	1.1	0.0	3.4	1.1	59.8
	製造業(繊維・衣服)	230	7	4	3	199	46	5	10	2	8	9	17	1	41	18	2	4	3	199
		100.0	3.0	1.7	1.3	86.5	20.0	2.2	4.3	0.9	3.5	3.9	7.4	0.4	17.8	7.8	0.9	1.7	1.3	86.5
	製造業(食品)	173	12	5	2	15	142	7	37	5	21	5	21	7	53	13	4	10	9	142
		100.0	6.9	2.9	1.2	8.7	82.1	4.0	21.4	2.9	12.1	2.9	12.1	4.0	30.6	7.5	2.3	5.8	5.2	82.1
	製造業(機械・金属)	172	4	2	6	7	24	133	28	26	43	14	11	7	18	5	2	4	4	133
		100.0	2.3	1.2	3.5	4.1	14.0	77.3	16.3	15.1	25.0	8.1	6.4	4.1	10.5	2.9	1.2	2.3	2.3	77.3
製造業(造船)	186	11	6	9	3	11	34	24	172	45	11	3	6	3	0	1	4	0	172	
	100.0	5.9	3.2	4.8	1.6	5.9	18.3	12.9	92.5	24.2	5.9	1.6	3.2	1.6	0.0	0.5	2.2	0.0	92.5	
製造業(自動車関係)	213	8	1	0	12	51	15	36	0	145	7	37	9	52	15	0	11	10	145	
	100.0	3.8	0.5	0.0	5.6	23.9	7.0	16.9	0.0	68.1	3.3	17.4	4.2	24.4	7.0	0.0	5.2	4.7	68.1	
小売業	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
介護	18	4	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	18	0	0	0	0	18	
	100.0	22.2	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
その他	127	1	1	0	11	34	11	32	12	18	16	7	2	28	8	0	9	29	29	
	100.0	0.8	0.8	0.0	8.7	26.8	8.7	25.2	9.4	14.2	12.6	5.5	1.6	22.0	6.3	0.0	7.1	22.8		

b. 企業の選択基準について

- いずれの外国人材も「技術を学んだり、自分の技術が使えること」が半数を超えて最重要視している。
- 「給料がいいこと」は重要な条件であるものの、「会社の人が親切にしてくれること」や「自分の働きたい場所、住みたい場所にあること」と近い比率で並んでいる。
- 就労地・居住地重視の選択者は、半数以上が県内を希望している。ヒアリング調査において、県内での就労・居住を希望する理由として、広島に対する愛着や住み慣れた土地への安心感、物価の安さなどの声があった。

【働く会社を選択するときに重視する条件（3つまで複数回答）】

(上段:実数、下段:%)

	回答者数	この技術を学んだが、使える、	帰国後に就職したい	自分が進みたい会社	残業が少ないこと	給料がいいこと	会社で生活面を支援してくれること	会社の人と親しく	同じ国の人と働く	自分自身が働きたい場所	その他
技能実習生	1,268 100.0	651 51.3	310 24.4	118 9.3	39 3.1	471 37.1	365 28.8	500 39.4	226 17.8	517 40.8	53 4.2
日本語学校生等	556 100.0	314 56.5	181 32.6	88 15.8	10 1.8	188 33.8	204 36.7	170 30.6	39 7.0	253 45.5	15 2.7
大学生等	199 100.0	116 58.3	42 21.1	51 25.6	17 8.5	88 44.2	54 27.1	80 40.2	12 6.0	86 43.2	3 1.5

【「自分が働きたい場所、または、住みたい場所にあること」選択者の就労・居住希望場所(出身国別)】

(上段:実数、下段:%)

	回答者数	広島県内	東京	大阪	その他
技能実習生	509 100.0	290 57.0	160 31.4	52 10.2	7 1.4
ベトナム	185 100.0	120 64.9	46 24.9	18 9.7	1 0.5
中国	226 100.0	96 42.5	98 43.4	28 12.4	4 1.8
フィリピン	52 100.0	36 69.2	12 23.1	2 3.8	2 3.8
インドネシア	26 100.0	23 88.5	2 7.7	1 3.8	0 0.0
その他	19 100.0	14 73.7	2 10.5	3 15.8	0 0.0
日本語学校生等	247 100.0	170 68.8	22 8.9	36 14.6	19 7.7
ベトナム	181 100.0	127 70.2	15 8.3	28 15.5	11 6.1
中国	30 100.0	20 66.7	6 20.0	2 6.7	2 6.7
ネパール	18 100.0	11 61.1	1 5.6	2 11.1	4 22.2
その他	17 100.0	11 64.7	0 0.0	4 23.5	2 11.8
大学生等	85 100.0	48 56.5	17 20.0	13 15.3	7 8.2
ベトナム	18 100.0	13 72.2	1 5.6	4 22.2	0 0.0
中国	56 100.0	29 51.8	12 21.4	9 16.1	6 10.7
その他	11 100.0	6 54.5	4 36.4	0 0.0	1 9.1

2. 生活環境・地域交流

(1) 生活上の課題

- 技能実習生及び大学生等の約7割、日本語学校生等の約8割が生活上で何らかの課題を抱えている。
- 主な課題は、「方言がわからない」（概ね2～3割程度）など、コミュニケーション関係の課題が上位を占めている。
- 職場での課題と同様、在留期間が短く、日本語の習熟度が低いほど生活上の困りごとが多い傾向がある。
一方、「病院でことばが通じない」や「災害の時にどうしたらいいかわからない」などについては、在留期間が長くなっても、困っている状態が継続している傾向がある。
- 生活上の困りごとの相談相手は、
 - 技能実習生：同じ国出身の同僚 45.4% (590人/1,299人)、監理団体の人 44.5% (578人/1,299人)
 - 日本語学校生等：日本語教室等の先生 59.3% (354人/597人)、自分国の家族等 34.8% (208人/597人)
 - 大学生等：自分の国の家族等 45.0% (117人/260人)、会社や学校の同じ国の人 37.7% (98人/260人)
- 技能実習生及び日本語学校生等の相談相手は、日本国内の所属先（企業、学校等）の身近な人が最も多い。大学生等については、相談相手は自分の国の家族等が最も多いが、会社や学校の同じ国の人なども3割以上で続いており、身近な人にも相談していることがうかがえる。また、ヒアリング調査では、SNS を活用して同じ国の人とのコミュニティの中で解決しているという声もあった。

【普段の生活で困っていることや不安なこと（在留期間別／複数回答、一部抜粋）】

(上段：実数、下段：%)

	回答者数	聞き取れない日本語が	話せない日本語が	読めない日本語が	書けない日本語が	方言(広島特有のことば)がわからない	地域の人と日本語で取れないコミュニケーション	日本の文化や習慣が理解できない	生活のルールがわからない	病院でことばが通じない	電機、ガス、電話やインターネットなどのときに、どうしたらいいかわからない	災害(大雨、地震、台風など)のときに、どうしたらいいかわからない	困っていることはない	その他
技能実習生	1,262	152	148	82	76	294	217	88	16	228	99	121	419	43
	100.0	12.0	11.7	6.5	6.0	23.3	17.2	7.0	1.3	18.1	7.8	9.6	33.2	3.4
1年未満	315	64	54	37	26	103	60	21	7	48	22	39	84	7
	100.0	20.3	17.1	11.7	8.3	32.7	19.0	6.7	2.2	15.2	7.0	12.4	26.7	2.2
1年	283	26	26	20	16	61	53	27	3	50	24	23	95	9
	100.0	9.2	9.2	7.1	5.7	21.6	18.7	9.5	1.1	17.7	8.5	8.1	33.6	3.2
2年	429	42	48	21	17	81	72	24	3	88	33	39	148	19
	100.0	9.8	11.2	4.9	4.0	18.9	16.8	5.6	0.7	20.5	7.7	9.1	34.5	4.4
3年	178	16	17	4	12	37	26	13	3	38	15	14	70	5
	100.0	9.0	9.6	2.2	6.7	20.8	14.6	7.3	1.7	21.3	8.4	7.9	39.3	2.8
4年以上	39	2	1	0	3	7	5	2	0	4	5	3	16	2
	100.0	5.1	2.6	0.0	7.7	17.9	12.8	5.1	0.0	10.3	12.8	7.7	41.0	5.1
日本語学校生等	592	122	116	45	38	162	105	55	17	115	83	79	96	16
	100.0	20.6	19.6	7.6	6.4	27.4	17.7	9.3	2.9	19.4	14.0	13.3	16.2	2.7
1年未満	217	70	65	24	18	67	59	22	7	41	31	32	20	6
	100.0	32.3	30.0	11.1	8.3	30.9	27.2	10.1	3.2	18.9	14.3	14.7	9.2	2.8
1年	196	33	30	15	10	52	27	19	6	37	32	27	36	4
	100.0	16.8	15.3	7.7	5.1	26.5	13.8	9.7	3.1	18.9	16.3	13.8	18.4	2.0
2年	107	13	10	4	7	28	9	6	2	23	11	10	22	5
	100.0	12.1	9.3	3.7	6.5	26.2	8.4	5.6	1.9	21.5	10.3	9.3	20.6	4.7
3年	35	2	1	1	0	8	3	4	1	7	5	6	9	1
	100.0	5.7	2.9	2.9	0.0	22.9	8.6	11.4	2.9	20.0	14.3	17.1	25.7	2.9
4年以上	34	3	9	1	3	6	6	3	1	5	4	3	8	0
	100.0	8.8	26.5	2.9	8.8	17.6	17.6	8.8	2.9	14.7	11.8	8.8	23.5	0.0
大学生等	258	36	30	20	16	54	29	18	19	39	31	40	69	19
	100.0	14.0	11.6	7.8	6.2	20.9	11.2	7.0	7.4	15.1	12.0	15.5	26.7	7.4
1年未満	56	21	18	15	10	18	13	5	10	10	11	14	6	4
	100.0	37.5	32.1	26.8	17.9	32.1	23.2	8.9	17.9	17.9	19.6	25.0	10.7	7.1
1年	29	5	7	4	2	8	5	1	4	4	1	6	5	4
	100.0	17.2	24.1	13.8	6.9	27.6	17.2	3.4	13.8	13.8	3.4	20.7	17.2	13.8
2年	52	3	3	1	2	9	4	4	3	9	9	6	17	5
	100.0	5.8	5.8	1.9	3.8	17.3	7.7	7.7	5.8	17.3	17.3	11.5	32.7	9.6
3年	70	4	1	0	0	14	6	6	0	10	7	8	18	4
	100.0	5.7	1.4	0.0	0.0	20.0	8.6	8.6	0.0	14.3	10.0	11.4	25.7	5.7
4年以上	51	3	1	0	2	5	1	2	2	6	3	6	23	2
	100.0	5.9	2.0	0.0	3.9	9.8	2.0	3.9	3.9	11.8	5.9	11.8	45.1	3.9

※在留期間の不明となっている回答者がいるため、属性ごとの小計と内訳は一致しない。

【普段の生活で困っていることや不安なこと（日本語習熟度別／複数回答、一部抜粋）】

(上段:実数, 下段:%)

	回答者数	生活に必要な日本語が聞き取れない	生活に必要な日本語が話せない	生活に必要な日本語が読めない	生活に必要な日本語が書けない	方言がわからない	地域の人と日本語でコミュニケーションが取れない	日本の文化や習慣が理解できない	生活のルールがわからない	病院でことばが通じない	電気のガス、電話やインターネットの方法がわからない	災害（大雨、地震、台風など）のときに、どうしたらいいかわからない	困っていることはない	その他
技能実習生	1,262	152	148	82	76	294	217	88	16	228	99	121	419	43
	100.0	12.0	11.7	6.5	6.0	23.3	17.2	7.0	1.3	18.1	7.8	9.6	33.2	3.4
日本語習熟度【低】	346	39	39	28	28	74	68	29	3	61	29	40	103	7
	100.0	11.3	11.3	8.1	8.1	21.4	19.7	8.4	0.9	17.6	8.4	11.6	29.8	2.0
日本語習熟度【中】	645	76	81	45	39	162	104	41	9	121	49	63	218	28
	100.0	11.8	12.6	7.0	6.0	25.1	16.1	6.4	1.4	18.8	7.6	9.8	33.8	4.3
日本語習熟度【高】	95	7	8	2	2	22	8	6	1	17	9	5	46	2
	100.0	7.4	8.4	2.1	2.1	23.2	8.4	6.3	1.1	17.9	9.5	5.3	48.4	2.1
日本語学校生等	592	122	116	45	38	162	105	55	17	115	83	79	96	16
	100.0	20.6	19.6	7.6	6.4	27.4	17.7	9.3	2.9	19.4	14.0	13.3	16.2	2.7
日本語習熟度【低】	64	25	22	8	7	15	14	6	1	8	12	5	8	0
	100.0	39.1	34.4	12.5	10.9	23.4	21.9	9.4	1.6	12.5	18.8	7.8	12.5	0.0
日本語習熟度【中】	313	66	70	26	22	94	59	33	5	71	51	47	40	6
	100.0	21.1	22.4	8.3	7.0	30.0	18.8	10.5	1.6	22.7	16.3	15.0	12.8	1.9
日本語習熟度【高】	149	19	15	6	3	38	20	8	7	28	18	18	40	9
	100.0	12.8	10.1	4.0	2.0	25.5	13.4	5.4	4.7	18.8	12.1	12.1	26.8	6.0
大学生等	258	36	30	20	16	54	29	18	19	39	31	40	69	19
	100.0	14.0	11.6	7.8	6.2	20.9	11.2	7.0	7.4	15.1	12.0	15.5	26.7	7.4
日本語習熟度【低】	23	9	8	9	4	6	7	2	3	4	4	2	1	3
	100.0	39.1	34.8	39.1	17.4	26.1	30.4	8.7	13.0	17.4	17.4	8.7	4.3	13.0
日本語習熟度【中】	48	14	14	8	7	12	10	4	5	14	7	8	9	2
	100.0	29.2	29.2	16.7	14.6	25.0	20.8	8.3	10.4	29.2	14.6	16.7	18.8	4.2
日本語習熟度【高】	174	9	7	2	2	32	11	9	10	20	18	27	58	14
	100.0	5.2	4.0	1.1	1.1	18.4	6.3	5.2	5.7	11.5	10.3	15.5	33.3	8.0

※調査対象者の主観に基づく回答を整理・類別した区分

※習熟度の分類ができない回答者がいるため、属性ごとの小計と内訳は一致しない。

【公的相談窓口の認知度及び相談経験の有無】

(上段:実数, 下段:%)

(2) 公的窓口の認知度について

- 技能実習生及び日本語学校生等、大学生等ともに7割前後が役所など公的な相談窓口があることを知らないと回答している。
 - 技能実習生 70.8% (894人/1,263人)
 - 日本語学校生等 68.5% (394人/575人)
 - 大学生等 72.7% (184人/253人)

	回答者数	知っている		知らない
		も相談した	は相談した	
技能実習生	1,263	36	333	894
	100.0	2.9	26.4	70.8
日本語学校生等	575	33	148	394
	100.0	5.7	25.7	68.5
大学生等	253	16	53	184
	100.0	6.3	20.9	72.7

(3) 情報の入手や伝達について

- 技能実習生及び日本語学校生等、大学生等ともに7割前後がスマートフォンを所有しており、PC等その他の手段を含め、ほぼ全ての外国人材がインターネットにアクセスできる環境にある。

《スマートフォン所有》

- 技能実習生 78.7% (1,015人/1,289人)
- 日本語学校生等 76.2% (454人/596人)
- 大学生等 66.2% (172人/260人)

【スマートフォンやインターネットにつながる機器の保有】

(上段:実数, 下段:%)

《インターネット利用可能》

- 技能実習生 99.1% (1,277人/1,289人)
- 日本語学校生等 98.0% (584人/596人)
- 大学生等 98.8% (257人/260人)

	回答者数	スマートフォンを持っている	スマートフォンやインターネットにつながる機器の保有		もっていない
			スマートフォンやインターネットにつながる機器を保有している	スマートフォンやインターネットにつながる機器を保有していない	
技能実習生	1,289	1,015	195	67	12
	100.0	78.7	15.1	5.2	0.9
日本語学校生等	596	454	118	12	12
	100.0	76.2	19.8	2.0	2.0
大学生等	260	172	79	6	3
	100.0	66.2	30.4	2.3	1.2

(4) 求める生活関連情報

- 技能実習生及び日本語学校生等、大学生等ともに「災害など緊急の時の情報」、「医療（病院、薬局など）の情報」のニーズが高い。

【生活についてほしい情報（複数回答）】

（上段：実数、下段：％）

	回答者数	情報局など病院の、	業医療への情報	業自での情報	知役所からの情報	情日語教室の情報	の災害など緊急の情報	案通公共施設などの交	ルのゴミ出しのしなど	特にな	その他
技能実習生	1,246	393	350	105	196	504	201	224	244	23	
	100.0	31.5	28.1	8.4	15.7	40.4	16.1	18.0	19.6	1.8	
1年未満	317	128	103	28	54	157	68	65	39	5	
	100.0	40.4	32.5	8.8	17.0	49.5	21.5	20.5	12.3	1.6	
1年	277	89	74	15	44	111	36	57	52	6	
	100.0	32.1	26.7	5.4	15.9	40.1	13.0	20.6	18.8	2.2	
2年	421	120	117	36	53	151	55	59	102	8	
	100.0	28.5	27.8	8.6	12.6	35.9	13.1	14.0	24.2	1.9	
3年	174	48	44	18	34	66	34	36	36	4	
	100.0	27.6	25.3	10.3	19.5	37.9	19.5	20.7	20.7	2.3	
4年以上	38	4	7	7	6	14	6	4	10	0	
	100.0	10.5	18.4	18.4	15.8	36.8	15.8	10.5	26.3	0.0	
日本語学校生等	572	259	182	127	177	259	142	112	53	4	
	100.0	45.3	31.8	22.2	30.9	45.3	24.8	19.6	9.3	0.7	
1年未満	217	95	74	46	82	101	55	44	15	2	
	100.0	43.8	34.1	21.2	37.8	46.5	25.3	20.3	6.9	0.9	
1年	184	87	60	43	49	83	50	41	20	1	
	100.0	47.3	32.6	23.4	26.6	45.1	27.2	22.3	10.9	0.5	
2年	100	48	30	21	23	42	18	19	12	1	
	100.0	48.0	30.0	21.0	23.0	42.0	18.0	19.0	12.0	1.0	
3年	35	13	12	8	13	17	11	5	4	0	
	100.0	37.1	34.3	22.9	37.1	48.6	31.4	14.3	11.4	0.0	
4年以上	33	15	4	9	9	13	8	3	2	0	
	100.0	45.5	12.1	27.3	27.3	39.4	24.2	9.1	6.1	0.0	
大学生等	255	117	58	64	65	95	77	53	47	11	
	100.0	45.9	22.7	25.1	25.5	37.3	30.2	20.8	18.4	4.3	
1年未満	55	28	18	16	15	29	25	21	6	1	
	100.0	50.9	32.7	29.1	27.3	52.7	45.5	38.2	10.9	1.8	
1年	28	14	7	10	6	12	8	7	2	3	
	100.0	50.0	25.0	35.7	21.4	42.9	28.6	25.0	7.1	10.7	
2年	52	29	9	10	12	16	13	10	7	4	
	100.0	55.8	17.3	19.2	23.1	30.8	25.0	19.2	13.5	7.7	
3年	69	28	15	18	17	19	18	7	14	3	
	100.0	40.6	21.7	26.1	24.6	27.5	26.1	10.1	20.3	4.3	
4年以上	51	18	9	10	15	19	13	8	18	0	
	100.0	35.3	17.6	19.6	29.4	37.3	25.5	15.7	35.3	0.0	

※在留期間の不明となっている回答者がいるため、属性ごとの小計と内訳は一致しない。

(5) 将来家族と日本で生活する際に不安に感じること

- 技能実習生及び日本語学校生等、大学生等ともに、「家族が日本語がわからない」、「住む家を見つけること」が上位を占めた。

【広島県内で家族と生活するうえで不安なこと（複数回答）】

（上段：実数、下段：％）

	回答者数	る住むこと家を見つけ	が家族になが病つたとき	出産や子育て	校子（供）の教育（学	わ家族から日本語が	勉強（者）の日本語の	な方（ごみ）の音やにおい	地（ごみ）の音やにおい	ケの家族と近所の人	ら通な族い	か車族が乗れない	わう災かすの不安なこと	い不安なこと	その他
技能実習生	1,264	459	274	184	298	758	205	185	265	245	214	133	173	35	
	100.0	36.3	21.7	14.6	23.6	60.0	16.2	14.6	21.0	19.4	16.9	10.5	13.7	2.8	
日本語学校生等	574	190	118	138	99	258	64	62	122	87	108	64	90	13	
	100.0	33.1	20.6	24.0	17.2	44.9	11.1	10.8	21.3	15.2	18.8	11.1	15.7	2.3	
大学生等	249	74	65	39	51	143	31	41	81	39	46	42	32	6	
	100.0	29.7	26.1	15.7	20.5	57.4	12.4	16.5	32.5	15.7	18.5	16.9	12.9	2.4	

(6) 広島県に対する評価について

- 「広島県内に住んで良かったと思うこと」については、技能実習生及び日本語学校生等、大学生等ともに、所属する「会社や学校の日本人が親切」、「東京などに比べて物価が安い」が上位を占めた。

【広島県内に住んで良かったと思ったこと(出身国別、複数回答)】

(上段：実数、下段：%)

	回答者数	日会社 本人や 親校 切の	が近 親所 切の 日本 人	豊自 然か や文 化が	活店 が便 多 く、 生	いべ 東 て京 物な 価ど に安 比	いて同 いる 国 人か ら多 来	な思 い な った こと とは	良 かつ たこ とは	そ の 他
技能実習生	1,280 100.0	678 53.0	302 23.6	417 32.6	311 24.3	479 37.4	343 26.8	64 5.0	24 1.9	
ベトナム	489 100.0	279 57.1	100 20.4	140 28.6	164 33.5	213 43.6	131 26.8	15 3.1	11 2.2	
中国	485 100.0	259 53.4	143 29.5	148 30.5	99 20.4	181 37.3	131 27.0	49 10.1	6 1.2	
フィリピン	142 100.0	72 50.7	22 15.5	73 51.4	26 18.3	25 17.6	36 25.4	0 0.0	2 1.4	
インドネシア	101 100.0	26 25.7	20 19.8	45 44.6	16 15.8	52 51.5	35 34.7	0 0.0	0 0.0	
その他	55 100.0	38 69.1	16 29.1	9 16.4	6 10.9	6 10.9	6 10.9	0 0.0	5 9.1	
日本語学校生等	592 100.0	277 46.8	129 21.8	200 33.8	206 34.8	345 58.3	147 24.8	20 3.4	13 2.2	
ベトナム	415 100.0	182 43.9	78 18.8	142 34.2	162 39.0	259 62.4	124 29.9	7 1.7	7 1.7	
中国	81 100.0	41 50.6	27 33.3	19 23.5	23 28.4	44 54.3	19 23.5	5 6.2	3 3.7	
ネパール	49 100.0	29 59.2	12 24.5	20 40.8	10 20.4	20 40.8	3 6.1	4 8.2	3 6.1	
その他	46 100.0	24 52.2	11 23.9	19 41.3	10 21.7	21 45.7	1 2.2	4 8.7	0 0.0	
大学生等	258 100.0	130 50.4	80 31.0	108 41.9	79 30.6	147 57.0	53 20.5	11 4.3	11 4.3	
ベトナム	56 100.0	28 50.0	13 23.2	23 41.1	19 33.9	30 53.6	11 19.6	3 5.4	2 3.8	
中国	150 100.0	69 46.0	52 34.7	61 40.7	44 29.3	92 61.3	36 24.0	5 3.3	7 4.7	
その他	52 100.0	33 63.5	15 28.8	24 46.2	16 30.8	25 48.1	6 11.5	3 5.8	2 3.8	

- 技能実習生及び日本語学校生等、大学生等とも、県内での就労・居住を希望する者は、広島県内に住んで良かったと思うこととして「会社や学校の日本人が親切」を選択する傾向が高く、人間関係を良好に保つことが、就業地・居住地の選択に大きな影響を与えることが考えられる。

【広島県内に住んで良かったと思ったこと(働く企業を選ぶときに就労地・居住地を重視する外国人材のみ、複数回答)】

(上段：実数、下段：%)

	回答者数	親の会 切日社 本や 人学 が校	人近 が所 親の 切日 本	が自 豊然 かや 文化	生店 活 が 多 便 く、 利	が比 安べ 東 て京 物な 価ど に	が来同 多て いい 国 人か ら	は思 な な った こと とは	良 かつ たこ とは	そ の 他
技能実習生	511 100.0	232 45.4	128 25.0	168 32.9	126 24.7	209 40.9	152 29.7	28 5.5	10 2.0	
は住 みたい 場所 また										
広島県内	284 100.0	161 56.7	80 28.2	100 35.2	78 27.5	118 41.5	90 31.7	4 1.4	4 1.4	
東京	160 100.0	45 28.1	30 18.8	47 29.4	38 23.8	64 40.0	47 29.4	17 10.6	4 2.5	
大阪	52 100.0	20 38.5	14 26.9	18 34.6	8 15.4	21 40.4	14 26.9	6 11.5	1 1.9	
その他	7 100.0	2 28.6	2 28.6	1 14.3	0 0.0	2 28.6	1 14.3	0 0.0	1 14.3	
日本語学校生等	246 100.0	122 49.6	46 18.7	86 35.0	87 35.4	161 65.4	67 27.2	3 1.2	4 1.6	
は住 みたい 場所 また										
広島県内	165 100.0	87 52.7	33 20.0	63 38.2	64 38.8	97 58.8	45 27.3	3 1.8	3 1.8	
東京	22 100.0	9 40.9	4 18.2	5 22.7	5 22.7	19 86.4	2 9.1	0 0.0	1 4.5	
大阪	36 100.0	12 33.3	2 5.6	9 25.0	12 33.3	32 88.9	14 38.9	0 0.0	0 0.0	
その他	18 100.0	11 61.1	6 33.3	6 33.3	4 22.2	10 55.6	4 22.2	0 0.0	0 0.0	
大学生等	86 100.0	44 51.2	33 38.4	37 43.0	31 36.0	55 64.0	22 25.6	5 5.8	4 4.7	
は住 みたい 場所 また										
広島県内	48 100.0	24 50.0	18 37.5	26 54.2	17 35.4	28 58.3	12 25.0	3 6.3	3 6.3	
東京	17 100.0	13 76.5	9 52.9	7 41.2	4 23.5	11 64.7	5 29.4	0 0.0	0 0.0	
大阪	13 100.0	5 38.5	3 23.1	2 15.4	5 38.5	9 69.2	1 7.7	2 15.4	0 0.0	
その他	7 100.0	1 14.3	3 42.9	1 14.3	5 71.4	6 85.7	4 57.1	0 0.0	1 14.3	

※就労または居住希望地が不明な回答者がいるため、属性ごとの小計と内訳は一致しないことがある。

(7) 地域との交流について

① 日本人との交流について

- 技能実習生及び日本語学校生等、大学生等ともに9割以上が近所の日本人と親睦を深めたいと考えている。

- 技能実習生 90.0% (1,139人/1,266人)
- 日本語学校生等 92.4% (545人/590人)
- 大学生等 91.1% (234人/257人)

【「住んでいる場所の日本人と仲良くなりたと思うか。」への回答結果】

(上段：実数、下段：%)

	回答者数	思っている	思っていない
技能実習生	1,266 100.0	1,139 90.0	127 10.0
ベトナム	483 100.0	426 88.2	57 11.8
中国	479 100.0	436 91.0	43 9.0
フィリピン	144 100.0	136 94.4	8 5.6
インドネシア	99 100.0	97 98.0	2 2.0
その他	53 100.0	37 69.8	16 30.2
日本語学校生等	590 100.0	545 92.4	45 7.6
ベトナム	415 100.0	386 93.0	29 7.0
中国	80 100.0	73 91.3	7 8.8
ネパール	48 100.0	46 95.8	2 4.2
その他	46 100.0	39 84.8	7 15.2
大学生等	257 100.0	234 91.1	23 8.9
ベトナム	56 100.0	45 80.4	11 19.6
中国	150 100.0	140 93.3	10 6.7
その他	51 100.0	49 96.1	2 3.9

- しかしながら、技能実習生の85.3%(1,094人/1,282人)、日本語学校生等の76.1%(448人/589人)、大学生等の64.7%(165人/255人)が、近所の日本人との会話の頻度が「あいさつ程度」または「会話がなし」と回答しており、現状では交流が少ない。

ヒアリング調査から、あいさつ以上の交流が進まない一因として、日本語での理解力や会話力の不足が背景との声があった。

【近所の日本人と話をする機会】

(上段：実数、下段：%)

	回答者数	ある				ない	(参考) 「あいさつ程度」 「会話がなし」 (A+B)
		い に 相 つ く た ら し て き	こ い と 話 さ し て き	こ い と 話 さ し て き あ る 長 さ	あ い さ つ 程 度 つ き		
技能実習生	1,282 100.0	48 3.7	140 10.9	893 69.7	201 15.7	1,094 85.3	
日本語学校生等	589 100.0	29 4.9	112 19.0	314 53.3	134 22.8	448 76.1	
大学生等	255 100.0	29 11.4	61 23.9	126 49.4	39 15.3	165 64.7	

- 交流の手段としては、技能実習生及び日本語学校生等、大学生等ともに半数以上が「近所の行事(祭りなど)に参加」を希望し、最多である。

ヒアリング調査から、チラシなどでは、地域行事などのイベント情報が行き届かないのではないかと声があった。

【希望する地域の日本人との交流方法】

(上段：実数、下段：%)

	回答者数	近所の行事(祭りなど)に参加したい	自分の国の文化を紹介したい	一緒にボランティア活動をした	一緒に食事など気軽に交流したい	その他
技能実習生	1,033 100.0	519 50.2	368 35.6	247 23.9	288 27.9	53 5.1
ベトナム	393 100.0	238 60.6	184 46.8	97 24.7	72 18.3	22 5.6
中国	372 100.0	164 44.1	122 32.8	100 26.9	115 30.9	28 7.5
フィリピン	130 100.0	49 37.7	32 24.6	31 23.8	42 32.3	3 2.3
インドネシア	96 100.0	36 37.5	18 18.8	14 14.6	54 56.3	0 0.0
その他	36 100.0	26 72.2	12 33.3	4 11.1	5 13.9	0 0.0
日本語学校生等	519 100.0	280 53.9	227 43.7	150 28.9	196 37.8	11 2.1
ベトナム	372 100.0	192 51.6	178 47.8	100 26.9	146 39.2	6 1.6
中国	67 100.0	45 67.2	18 26.9	26 38.8	29 43.3	4 6.0
ネパール	43 100.0	25 58.1	13 30.2	13 30.2	6 14.0	1 2.3
その他	36 100.0	17 47.2	17 47.2	11 30.6	14 38.9	0 0.0
大学生等	226 100.0	137 60.6	93 41.2	84 37.2	119 52.7	5 2.2
ベトナム	42 100.0	21 50.0	19 45.2	17 40.5	17 40.5	0 0.0
中国	137 100.0	83 60.6	49 35.8	51 37.2	65 47.4	4 2.9
その他	47 100.0	33 70.2	25 53.2	16 34.0	37 78.7	1 2.1

※出身国が不明となっている回答者がいるため、属性ごとの小計と内訳は一致しないことがある。

② 同じ国の人が集まるコミュニティについて

- 同じ国の人が集まるコミュニティの認知度・活用状況をみると、技能実習生は、日本語学校生等及び大学生等と比べて認知度・活用状況とも低い。

また、国別に見ると、ベトナム出身者は、技能実習生及び日本語学校生等、大学生等ともに「コミュニティに行ったことがある」と回答した者の割合が、他の国出身者よりも高い結果となった。

【自国の人が集まるコミュニティの有無】

(上段：実数、下段：%)

	回答者数	が近所	こ近く	きがあ	ながあ	があ	コミュニ	わか	参考
		あり、	とがに	ない遠	い、ど	あるこ			いた
		①	②	くを	こを	とを	ティ	らない	アユ
				知つ	知つ	知つ	は		ニ
				てい	てい	てい	い		テ
				る	る	る	っ		ィ
				で	か	か	た		ィ
					わ	わ	っ		に
					か	か	た		い
					ら	ら	っ		っ
							た		た
							い		い
							る		る
							こ		こ
							①+②		①+②
技能実習生	1,279 100.0	285 22.3	53 4.1	192 15.0	68 5.3	43 3.4	187 14.6	451 35.3	338 26.4
ベトナム	491 100.0	170 34.6	33 6.7	107 21.8	18 3.7	24 4.9	56 11.4	83 16.9	203 41.3
中国	485 100.0	45 9.3	3 0.6	33 6.8	22 4.5	11 2.3	95 19.6	276 56.9	48 9.9
フィリピン	142 100.0	30 21.1	6 4.2	17 12.0	22 15.5	3 2.1	10 7.0	54 38.0	36 25.4
インドネシア	100 100.0	30 30.0	5 5.0	23 23.0	3 3.0	4 4.0	19 19.0	16 16.0	35 35.0
その他	53 100.0	6 11.3	6 11.3	10 18.9	2 3.8	0 0.0	7 13.2	22 41.5	12 22.8
日本語学校生等	591 100.0	218 36.9	40 6.8	65 11.0	36 6.1	24 4.1	75 12.7	133 22.5	258 43.7
ベトナム	416 100.0	182 43.8	18 4.3	62 14.9	26 6.3	22 5.3	45 10.8	61 14.7	200 48.1
中国	81 100.0	14 17.3	7 8.6	1 1.2	3 3.7	1 1.2	17 21.0	38 46.9	21 25.9
ネパール	48 100.0	12 25.0	4 8.3	1 2.1	3 6.3	0 0.0	8 16.7	20 41.7	16 33.3
その他	45 100.0	10 22.2	11 24.4	0 0.0	4 8.9	1 2.2	5 11.1	14 31.1	21 46.7
大学生等	256 100.0	102 39.8	19 7.4	22 8.6	14 5.5	7 2.7	29 11.3	63 24.6	121 47.3
ベトナム	56 100.0	31 55.4	2 3.6	10 17.9	4 7.1	3 5.4	2 3.6	4 7.1	33 58.9
中国	148 100.0	51 34.5	13 8.8	5 3.4	9 6.1	1 0.7	22 14.9	47 31.8	64 43.2
その他	52 100.0	20 38.5	4 7.7	7 13.5	1 1.9	3 5.8	5 9.6	12 23.1	24 46.2

※出身国が不明となっている回答者がいるため、属性ごとの小計と内訳は一致しないことがある。

- ヒアリング結果において、
 - 生活に必要な情報は、同じ国の人との SNS グループなどのネットワークを活用し、入手することが多い
 - 大学内に同じ国の人々の大きなコミュニティがなく、入学当初は戸惑った。
 という声があったことから、日本での生活に慣れていない外国人や日本語の習熟度が低い外国人にとっては、同じ国の人々の存在やサポートは心強いと考えられる。

③ 今後の日本語学習の意向について

- 技能実習生及び日本語学校生等、大学生等ともに、ほとんどが学習したい^{※3}と回答している。
 - 技能実習生 88.1% (1,144 人/1,298 人)
 - 日本語学校生等 98.5% (591 人/600 人)
 - 大学生等 95.8% (249 人/260 人)

※3 会社が機会を設けたり、日本語教室が近隣にある等の条件付き回答も含む。

- 「職場の課題」、「生活上の課題」や「日本人との交流」にあるように日本語能力が課題であることから、日本語学習環境の整備が、職場や生活上の課題の解決、地域交流の促進に繋がることが期待できる。

(8) 一般外国人に対する調査との比較

- 同時に実施した一般外国人に対する調査と比べた場合、技能実習生及び日本語学校生等、大学生等に対する生活環境や交流に関する結果については、「生活に必要な日本語が書けない」の選択者が多いことを除いて、大きな差異は認められなかった。

生活上の課題の傾向は、約6割が何らかの課題を抱えているが、課題の内訳は多岐にわたっていることは共通しており、主に日本語やコミュニケーション関係（「方言がわからない」22.4%、「病院でことばが通じない」22.4%、「生活に必要な日本語が話せない」22.4%）となっている。

【普段の生活で困っていることや不安なこと（一般外国人／複数回答、一部抜粋）】

(上段：実数、下段：%)

	回答者数	生活に必要な日本語が聞かれない	生活に必要な日本語が話せない	生活に必要な日本語が読めない	生活に必要な日本語が書けない	方言（広島特有のことば）がわからない	地域の人と日本語でコミュニケーションが取れない	日本の文化や習慣が理解できない	生活のルールがわからない	病院でことばが通じない	電気、ガス、電話やインターネットなどの方法がわからない	災害（大雨、地震、台風など）のときに、どうしたらいいかわからない	困っていることはない	その他
一般外国人	49 100.0	6 12.2	11 22.4	7 14.3	10 20.4	11 22.4	6 12.2	1 2.0	2 4.1	11 22.4	5 10.2	2 4.1	18 36.7	2 4.1
技能実習生	1,262 100.0	152 12.0	148 11.7	82 6.5	76 6.0	294 23.3	217 17.2	88 7.0	16 1.3	228 18.1	99 7.8	121 9.6	419 33.2	43 3.4
日本語学校生等	592 100.0	122 20.6	116 19.6	45 7.6	38 6.4	162 27.4	105 17.7	55 9.3	17 2.9	115 19.4	83 14.0	79 13.3	96 16.2	16 2.7
大学生等	258 100.0	36 14.0	30 11.6	20 7.8	16 6.2	54 20.9	29 11.2	18 7.0	19 7.4	39 15.1	31 12.0	40 15.5	69 26.7	19 7.4

3. 今後の外国人材受入対策における課題

本調査の結果を受け、次の取組を進めていくことが必要と考えられる。

(1) 外国人が地域住民との繋がりを持ちながら、生活に必要な情報を共有できる仕組みづくり

外国人の9割以上が近所の日本人と親睦を深めたいと思っているが、現状では交流が少ない状況であり、地域住民と外国人との繋がりを促進する必要がある。

また、生活上の様々な困りごとの解決や情報入手は、同じ出身国の人など外国人同士のネットワークを通じて行われることが多く、こうしたネットワークの繋がり強化や活発化を支援することが有効である。

こうした取組により、外国人が孤立することなく、地域住民との共生も図られることが期待できる。

(2) 地域における日本語学習機会の拡充

職場や普段の生活で日本語能力が課題となっており、また、将来家族が来日した際に、日本語がわからないことを不安視する意見が多いこと、さらに、外国人の日本語学習の意欲もとても高いことから、地域における日本語教室の拡充を図っていくことが必要である。

(3) 行政情報や生活関連情報の提供の充実

災害や医療など緊急時の情報のニーズが高いことから、外国人が安心して暮らせるよう、これらの情報提供が必要である。また、地域との交流において、近所の行事に参加したいという回答が多く、地域行事・イベント情報を届けることが参加のきっかけづくりとなることが期待できる。

情報提供の手段としては、スマートフォンの所有率が高く、ほぼ全ての外国人がインターネットにアクセスできる環境にあることから、SNS等による情報発信が有効と考えられる。